

# かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 10 No 03

104号

平成14年 3月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## お母さんの顔

院長

今回は、変な題名ですが、お母さんの顔に関する話題を提供します。

赤ちゃんは何を見て、育っていくのでしょうか。産まれて初めて見る顔から始まりいちばんよく見ているのが、お母さんの顔だということは、皆さんおわかりだと思います。赤ちゃんは顔を見ているだけでなく、お母さんの瞳の中に自分の顔を映しながらか育っていくのです。子育てには様々な不安や心配がつきものなので、時にはお母さんの瞳には様々なフィルターがかかってしまいます。心配な顔で赤ちゃんを覗き込むと、その心配を赤ちゃんが感じてしまいます。神経質に育てられると神経質な子ども、ゆったり育てればゆったりした子どもに育つと言われます。これも同じことなのです。また、お母さんは赤ちゃんの瞳の中に自分の顔を映して、今度は母親として成長していくのです。赤ちゃんの具合が悪いときには、お母さんの心配は余計に強くなってしまいます。逆に赤ちゃんの笑顔はお母さんを安心させ、お母さんの笑顔もまた赤ちゃんを安心させるのです。

赤ちゃんの具合が悪いと、診察室で涙を見せるお母さんがいます。そんなとき「お母さんが泣いても病気は治らないよ。まして、いま病気で苦しんでいる子が、お母さんの涙を見たら何と思う。頼れるのは、お母さんだけなんだから。陰で泣いてもいいけど、うそでもいいから笑顔を見せてあげなさい。」と、言い聞かせます。子どもはお母さんの心配な顔を見れば、自分の病気が重いのかと感じ、余計に具合が悪くなってしまいかもしれません。

東北大学医学部の学生さんが、小児科の外來実習に来ています。2ヶ月ぐらいの赤ちゃんを抱っこさせると、全員例外なく笑みを漏らします。不思議な力を、赤ちゃんは持っているのです。赤ちゃんの笑顔は、もっと大きな力になることもあります。育児以外のことで心配があっても、赤ちゃんの笑顔で癒される。こんなこと、誰でも経験しているに違いありません。お母さんと赤ちゃんは、お互いの瞳

に自分という姿を映し合いながら、育て合っているのでしょう。

小学生になると、なるべく自分で症状を話すようにさせています。でも、なかなかうまくいきません。うまく自分で説明できないこともありますが、ほとんどの場合お母さんが問題で、勝手に話し始めるのです。「君。今日はどうしたの?」と聞くと、すかさずお母さんが「実は昨日から熱が出て...」と答

えはじめます。お母さんは黙っているとんでも、子どものもじもじする姿を見てしまうと、またまた口を挟んでしまうのです。もう一度質問すると、今度はお母さんの顔を見てしまうのです。そして質問した小生ではなく、お母さんに答えるのです。これでは子どもと小生の間に、通訳がいるようなものです。勝手に病名を付けるわけにはいきませんが、母親の顔症候群 (Looking Mother's Face Syndrome) とでも呼びたいぐらいです。一体、この理由は何なのでしょう。推測の域を出ませんが、恐らく小さいうちから先回りして言葉を出したり、手を掛け過ぎたことが原因だと思います。子どもが少ないせい、親御さんは一生懸命子育てをします。愛情や思いやりを通り越して、いつの間にか干渉をし過ぎているのかもしれない。また子どもが自分でするまで、待てないのでしょうか。子どもがする前に、先回りして子どもがしたいことを推測して、言ったりやったりしてしまうのではないのでしょうか。また命令や禁止を主体とするような育児も、大きな影響を与えているかもしれません。子どもは自分が答えを出す前に、母親の顔が気になって仕方ないのです。今の若い人たちには「指示待ち族」と言うのがあるそうです。自分から積極的に行動が出来ず、他人からの指示を待っている人たちだそうです。こんな大人にならないためにも、子どもの自発的な芽を摘まないようにしたいものです。

今回、顔の話をつつしました。必要なお母さんの顔と、不必要なお母さんの顔です。赤ちゃんのうちにはよく顔を見てあげることが必要ですが、自立出来るようになったらお母さんの顔を頼りにしないで済むようにしたいものです。子どもが自分でいろいろ出来るようになったら、引っ張るのではなく後から押してあげるような子育ての意識が大切なことなのです。この、お母さんの顔について、少し考えてみて下さい。



### ・栄養育児相談 3月のお知らせ

毎週水曜日 13:30~  
栄養士担当 参加無料

### ・在宅休日当番

3月24日(日) 9:00~16:00

何かあれば、御利用下さい。



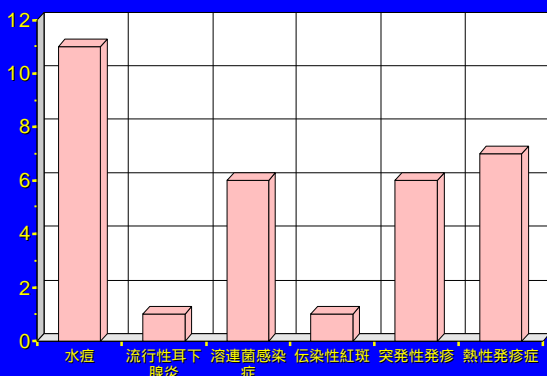
## 読者の広場

先月は、メールで20件と投書を2通頂きました。1件目は、「PHS、ケータイにつながる公衆電話にしてください。」と言う要望です。NTTに問い合わせたところ、ピンク電話からかける方法はないということです。鍵を使って普通の電話にしかける方法もあるようですが、料金の算定は出来ません。方法とすれば公衆電話の導入ということになりますが、設置基準もありむずかしいとのことでした。NTTも検討を約束してくれました。もう一つは、「絵本の置き場の位置とラインナップを考えて下さい。(以下略)」です。何度もお話ししたように、小児科では安全対策が重要なことの一つです。そのためわざわざ、テレビの部分を外に出っ張らせています。テレビを下に置くのも、地震の時の落下を防ぐためです。病院はテレビを見に来るところではないので、見えにくいと思いますが我慢して下さい。本のは位置に関しては、検討してみます。投書ありがとうございました。出来れば、名前(イニシャルでも)を書いていただきたいのですが。追及したいわけではありませんが、よろしくお願い致します。



今月はスペースが少ないので、あと一つ紹介を。インフルエンザで入院になった、青葉区の小泉さんからのメールです。「おとといは大変お世話になりました。(略)あの後、そのまま市立病院に向かったものの、後部座席で寝てるが、このまま意識が戻らなかつたら・・・と思うと心細く、でも、ここで事故など起こしては大変、と思い、慣れない街中を運転して行きました。市立病院に着いて、寝てるまま、CTと胸部レントゲンを撮りました。その後、血液検査と点滴をするのに、(略)「嫌だ！絶対に嫌だ！！」という普段の反抗する時のお得意の言葉が聞けて、ホッとしました。普段は頭にくるだけの「絶対に嫌だ！！」が、こんなに嬉しく感じるとは思いもしませんでした。その後、私の顔を見て「おかあさん...」と言ったので、安心して病室に入りました。市立病院の先生が、川村先生の紹介状を見て「インフルエンザの検査もして、解熱剤とひきつけ止めの坐薬も入れて、点滴もして...。やるべきことは全てやってあるんだね」と言っているのを聞いて大変なのに「さすが、川村先生...」と、心の中で思った私でした。(略)朝には平熱に戻り、ご飯も食べ、トイレにも歩いて行けました。(略)一泊の入院で帰ることが出来ました。「単純な熱性けいれんでしょう」という診断をいただき、安心しました。同室の子達もインフルエンザのようでしたが、1日で退院する息子に驚いていました。これも、予防接種を受けてたのと、早くにインフルエンザのお薬を飲んだことが良かったのかな、と思いました。もしも、どちらもしていなかったら...と思うと、ゾーッとします。も大変でしたが、今回は兄の...も色々頑張ってくれて、成長していることに驚きました。前回の入院で「健康第一、元気でいてくれるだけでいい」と子供達が元気に生活できることに感謝したはずなのに、また、子供達に色々注文をつけていた自分を反省するいい機会になったようです。また、川村先生には危機を救っていただき、看護婦さんからもとても力強い励ましと、心配で仕方ないのに、笑顔になれるような暖かい言葉もいただき、本当に感謝しています。病院が閉まる時間ギリギリまで様子を見ていただいて、その後、入院させていただいたのは、最良の方法だったんだなあ、と、つくづく思います。薬局でけいれんを起こしたのは、ラッキー(?)でした。何度見ても、けいれんしてる我が子の姿には不安で取り乱してしまいます。今回は先生の前で泣かないだけ、私も少しは進歩したのかな?とも思うのですが、先生達が側にいてくれなかつたら...と思うと、考えるのも恐ろしいです。引越して少し遠くなってしまいましたが、今回のことで、また先生への信頼を深めてしまったので、どんなに遠くても先生にご迷惑おかけしつつ、お世話になりたいと思います。こんな親子ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。」。このように感じてもらえるだけでも十分ですが、メール頂けることはもっと嬉しいことです。大変な力作で、お母さんの気持ちが良く伝わってきます。ありがとうございました。

## 2月の感染症の集計



2月はインフルエンザも多く、混雑していました。普通インフルエンザが流行すると、他の感染症は影をひそめます。しかし今年は、様々な感染症が入り交じり、患者さんだけでなく、小児科医も困らせています。流行しているのは嘔吐下痢症(ロタウイルス、それ以外も)、アデノウイルス感染症等、様々で、マイコプラズマ肺炎も混じっています。

## 書籍刊行のお知らせ

小児科医がやさしく教える 赤ちゃん・子どもの病気 PHP研究所  
当院のホームページで人気のある小児科ミニ知識の大幅な改訂と、新たに選んだ膨大な数のQ&Aが掲載されています。従来の医学書とも育児書とも異なる、新しいジャンルです。4月上旬、刊行予定です。乞う御期待!!。

## 医師という隣人達 草思社(非売品)

特徴を持った医療を実践している医師を、紹介する写真集です。全国から選ばれた医師50人が、紹介されます。写真と紹介文で、構成されています。4月以降、待合室で読むことが出来るようになります。

## 編集後記

診療だけでなく、執筆(ちょっと響きがいいでしょう)、HP、院内報と忙しく、落ち着ける日がありません。忙しいうちが華と、勝手に判断しています。お母さん達に頂くお礼や励ましのメールや言葉が支えになっています。いつになったら、余裕ができるのでしょうか。もう一つ出る本があります。NEWSの100号記念誌です。これも期待を!。本が3冊、ちょっと有名になるかな。

